



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯学部教育における IT の活用

教育委員長 井上美津子

我が国においては各分野で急速に IT 化が進んでおり、私も昭和大学歯学部の教育面でも IT 化は進行しています。歯学部では他学部在先駆けて電子ポートフォリオや e ラーニングを学生教育に導入してきており、当初は教育推進室が中心となった授業で実施していましたが、最近では各科の講義・実習の予習やレポート提出などにも活用されてきています。とくに事前学習として、実習前にビデオを見て実習内容のイメージづくりをしておいたり、講義前に e ラーニングで予備学習をしておくことは、授業の理解を深め、効率化を図る上でも有効と考えられます。来年度には5年生の臨床実習の成果記録や評価にも電子ポートフォリオを導入する計画を進めています。



また、今年4月からは昭和大学の全学部でシラバスが電子化されました。従来のような厚い冊子を持ち歩かなくとも、携帯やスマホで簡単に授業のチェックができるようになりました。まだ不具合が生じる箇所もありますが、徐々に整備していく予定です。

さらに、「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」プログラムも進行しています。これは文部科学省の大学間連携共同教育推進事業として昨年からはまったもので、北海道医療大学、岩手医科大学と一緒に各々の地元歯科医師会と連携して、基礎疾患を有する高齢患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成するための教育プログラムを構築しようとするもので、すでに今年度は3年生の授業に取り入れています。本学では教育推進室を中心に関連各科や学事部も協力して取り組んでおり、今後もバーチャル・ペーシェント(仮想患者)を用いた臨床推論能力やコミュニケーション能力の養成などを推進していく予定です。

しかし、IT 化された授業や学習が増えるなかで、学生も教員もコンピューターに向かう時間が長くなるのが懸念されます。医療は人と人のコミュニケーションが基本ですので、患者さんとのコミュニケーションはもとより、協働している医療チームのメンバーと自他の専門性を念頭にいた良好なコミュニケーションを図

ることが重要です。昭和大学の特色でもある「チーム医療」教育のなかで、医療人としての自覚とスキルが育ってくれることを望んでいます。

また IT 化の進行に伴って SNS の様々な問題もあがってきており、利用する側の責任が問われることも多々あります。「ネットワークは社会に開かれたものである(仲間うちだけのものではない)」ことを十分理解して、適切な利用をお願いしたいと思います。

解剖慰霊祭開催される

口腔解剖学講座 中島 功

平成25年度解剖慰霊祭が10月15日(火)14時より、御遺族・来賓・学内関係者・学生の参列のもと、上條講堂においてしめやかに行われました。本年度慰霊された献体者は病理解剖または解剖学実習のための正常解剖に供された方々で、この中には歯学部の解剖学実習のために献体された方が24柱含まれています。式には約132名の御遺族ならびに同伴者と、医・歯・薬・保健医療学部の学生が参列しました。今年の歯学部の解剖学実習は5月から7月まで行われました。医学・歯学を学ぶためには解剖学実習はなくてはならず、そのためにはご遺体の提供は不可欠です。献体者と御遺族に対して大切なご遺体を解剖させていただいた御恩を深く感じて、お礼をするために歯学部2年生が参列いたしました。

開会の辞に続いて、物故者の御冥福をお祈りして、参列者全員で黙祷が捧げられました。昭和大学を代表して口腔病理学部門の美島健二教授が祭文を述べられ、続いて学生代表として歯学部2年の青木理紗さんが弔辞を述べました。小出学長より参列者に御礼と感謝の気持ちを述べた御挨拶があり、参列者全員が祭壇の前で献花を捧げて、閉会の辞により15時に解剖慰霊祭は終了しました。



白菊会連合会総会開催される

口腔解剖学講座 中島 功

白菊会連合会平成25年度総会が10月20日(日)日比谷公会堂にて開催されました。当日は大変な豪雨にもかかわらず、参加大学8大学12学部から636名の会員さん及び同伴の方々が出席され、昭和大学歯学部からも55名の会員と5名の同伴者が参加されました。12時30分に開場となり、各校の解剖学教室員が会員さんをお出迎えしました。総会は今回の当番校である日本歯科大学新潟生命歯学部の影山幾男教授による開会の辞で始まり、次いでこれまでに御献体いただいた物故会員のご冥福を祈り全員で黙祷をささげました。続いて日本歯科大学理事長、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長の挨拶、会務報告が行われました。続いて次回の当番校である日本大学医学部の相澤信教授の閉会の辞で総会は終了しました。休憩を挟んだ後、日本歯科大学の学生及びOBによる演奏がおこなわれ、最後に全員で合唱し、15時30分に終了しました。終了する頃には雨も小ぶりになりましたが、日比谷公会堂の階段は一段の段差が大きいため、会員さんは滑らないように注意しながら会場を後にしていました。



白菊会連合会平成25年度総会が10月20日(日)日比谷公会堂にて開催されました。当日は大変な豪雨にもかかわらず、参加大学8大学12学部から636名の会員さん及び同伴の方々が出席され、昭和大学歯学部からも55名の会員と5名の同伴者が参加されました。12時30分に開場となり、各校の解剖学教室員が会員さんをお出迎えしました。総会は今回の当番校である日本歯科大学新潟生命歯学部の影山幾男教授による開会の辞で始まり、次いでこれまでに御献体いただいた物故会員のご冥福を祈り全員で黙祷をささげました。続いて日本歯科大学理事長、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協会理事長、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長の挨拶、会務報告が行われました。続いて次回の当番校である日本大学医学部の相澤信教授の閉会の辞で総会は終了しました。休憩を挟んだ後、日本歯科大学の学生及びOBによる演奏がおこなわれ、最後に全員で合唱し、15時30分に終了しました。終了する頃には雨も小ぶりになりましたが、日比谷公会堂の階段は一段の段差が大きいため、会員さんは滑らないように注意しながら会場を後にしていました。

先端歯学スクール優秀賞を受賞しました

大学院4年(歯科補綴学専攻) 鈴木 航

9月26日、27日の両日、先端歯学国際教育研究ネットワークが主催する「先端歯学スクール2013」が東京医科歯科大学にて行われました。本会は全国の国立大学を中心とした大学院生が集い、各々の研究について各大学の著名な教授達を交えて討論し合うもので、非常に緊張感のある会でした。今回、不肖ながら私が昭和大学を代表して参加させていただき、優秀賞を受賞することができました。先端歯学の名の通り、各大学院生は非常にレベルが高く、研究に誇りを持って取り組んでいたことが深く印象に残っております。そのような会で、優秀賞を受賞できたことは非常に貴重な経験となりました。このような機会を与えて下さった、山田篤先生、馬場一美先生、そして上條竜太郎先生を初め、多くの先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。



ティーチングアシスタントに採用されました

大学院3年(口腔衛生学部門) 村上 浩史

11月13日(水)に富士吉田キャンパスにて歯学部1年生の「統計の基礎演習」の実習にティーチングアシスタントとして参加して参りました。10年前の記憶に想いを馳せながら懐かしい樋口先生の講義を聴講した後、怒涛の実習が始まりました。内容としてはグループ内でのじゃんけんの勝ち数を解析環境 R で解析するもので、R を使用したことのない自分としては非常に勉強になった実習でした。この実習の重要性を少しでも伝えたいという思いで頑張りましたが、その思いは次回以降参加する高城先生、森田先生に託していきたいと思います。今回このような貴重な体験をさせて頂いた関係者の方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

永年勤続者表彰式開催される

歯学部長 宮崎 隆

去る11月12日(火)に上條講堂において、学校法人昭和大学の平成25年度永年勤続者表彰式が執り行われました。小口勝司理事長から、日本の雇用の形態が変わりつつあるなかで、永年勤続者がそれぞれの立場から大学の発展に長年貢献していただいたことに対する感謝の挨拶がありました。

今年度の表彰対象者は173名で、小口理事長から各勤続年代表者に、表彰状と記念品が授与されました。昭和大学宣言に引き続き、校歌を斉唱し、壇上で記念撮影を行いました。

歯学部・歯科病院関係の表彰者は以下の通りです。(敬称略)今後も益々お元気でご活躍されますようお祈り申し上げます。

35年:鈴木恵子(歯科薬理学)、能崎雅代(歯科病院事務課)、花山みゆき(歯科矯正学)、久松 勝(歯科病院歯科技工士)

25年:藤島昭宏(歯科理工学)、野澤ゆり子(美容歯科学)、河合優子(歯科病院看護部)、石田秀樹(歯科病院中央放射線室)

15年:野中直子(口腔解剖学)、高見正道(口腔生化学)、山田嘉重(歯内治療学)、滝口 尚(歯周病学)、桑澤実希(高齢者歯科学)、永尾 康(連携歯科学)、宮崎乃麗子(歯科病院事務課)、飯田祐子(歯科病院事務課)



D4 eラーニングが実施されました

口腔病理学部門 美島 健二

第4学年で実施される「口腔科学の基礎と展開」の目的は、第5学年の臨床実習に必要な知識を修得するために、4年生までに学んだ基本的な知識を整理することにあります。昨年度までは、基礎科目の担当各科が講義主体の従来型の形式で授業を行ってきました。しかしながら、従来型の講義では、学生の修得度評価が不十分であることから、双方向の授業の必要性が感じられていました。そこで、本年度から「eラーニング」を用いた双方向の授業形態に内容が変更されました。具体的には、担当各科がそれぞれ「モデルコアカリキュラム」に準じて、80題の多肢選択問題を作成し、学生はeラーニングを用いてコンピュータ上で問題演習を行います。問題演習の結果は即座に集計され、教員側においては学生の不得意分野の把握が可能となり、今後の授業計画にフィードバックがなされます。また、個々の学生にも演習結果のフィードバックが行われ、今後の学習に役立てることが可能となります。このことにより、効率のよい知識の整理が可能となり、共用試験の一つであるCBTの克服に向け役立つものとも考えられます。



大学院の副科目の必要単位が変更になりました

大学院歯学研究科運営委員長 佐藤裕二

大学院生のニーズの多様化に対応するために、大学院副科目の必要単位数の変更が9月の大学院教授会で決定しました。これまでは、必要な全30単位のうちで、主科目(専攻科目)10単位以上、副科目6単位以上が必要単位でした。このうちで、副科目の必要単位数を4単位に変更致しました。この変更は平成24年度入学者にさかのぼって適用されます。なお、本年度入学者で、専門医コース選択者の副科目必要単位数は2単位となりました。不明な点は学事部大学院係にお問い合わせ下さい。ニーズに合わせた多様なカリキュラムが可能となりますので、より良い教育につながるものと考えます。

認定医

広報委員長 井上 富雄

日本障害者歯科学会

指導医 大岡 貴史(口腔衛生学部門)

認定医 浅川 剛吉(障害者歯科学部門)

認定医 石崎 晶子(口腔衛生学部門)

認定医 杉山 智美(小児成育歯科学講座)

日本顎関節学会

専門医 阿部 有吾(歯科補綴学講座)

ベルギー便り

顎口腔疾患制御外科学講座 栗原 祐史

本年4月よりベルギーのブルージュにあるSint-Jan hospitalの頭蓋顎顔面外科に留学させて頂いております。ブルージュは首都ブリュッセルから北へ100kmほどのところにある「水の都」「北のヴェネツィア」「屋根のない美術館」等々、数々の異名をもつベルギーの古都で、中世ヨーロッパのかわいらしい街並みが堪能できる世界遺産の都市です。今年は例年に比べて夏の訪れが遅かったものの、天候に恵まれた過ごしやすき夏でしたが、現在はすでに朝晩の冷え込みが強く、紅葉も始まり、長い冬に備えています。

さて、頭蓋顎顔面外科では、文字通り、この領域の治療を行っています。特に顎骨再建や顎矯正手術が数多く行われています。また、日本ではまだ一般的ではない軟組織の審美性を考慮した三次元解析によるシミュレーションなどの最新の診断や内視鏡を用いた低侵襲の顎変形症治療を積極的に行っています。手術件数も週30件ほどあり、日中は主に手術室に入り、これらの手術の勉強や臨床研究をするなど充実した日々を過ごしております。また、こちらではレジデントに対する教育システムも確立されており、これらを含め、経験した知識や技術を少しでも多く持って帰ればと考えております。



受賞

広報委員長 井上 富雄

- ・第30回日本障害者歯科学会:優秀発表賞
横山 薫(口腔リハビリテーション医学部門)
大岡 貴史(口腔衛生学部門)
渡邊 賢礼(口腔衛生学部門)
- ・先端歯学スクール2013:優秀賞
鈴木 航(大学院4年歯科補綴学専攻)
- ・第62回日本歯科理工学会:優秀ポスター発表賞
滝口 裕一(大学院4年歯科理工学部門)
- ・第72回日本矯正歯科学会大会:優秀発表賞
芳賀 秀郷(歯科矯正学講座)

行事予定

広報委員長 井上 富雄

12月 7日(土):昭和歯学会例会

12月 7日(土):大学院I期入試

1月18日(土)・19日(日):センター入試

1月28日(火):CBT

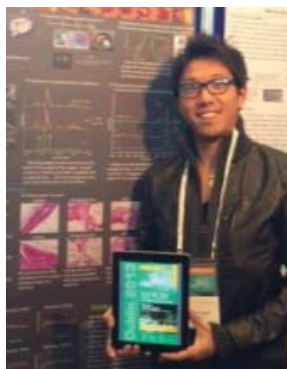
1月30日(木):I期入試

欧州インプラント学会で発表しました

大学院4年(歯科理工学専攻) 滝口 裕一

去る10月17日～19日、アイルランドのダブリンで開催された欧州インプラント学会(European Association for Osseointegration: EAO)に参加してきました。本学会は、地域色豊かな伝統芸能を含んだ盛大な開催セレモニーから始まります。また学会中に各インプラントメーカーが開催するパーティーでは、多くのユーザーが出席し、世界的にインプラント需要が未だ旺盛なことが覗えます。しかし主要なトピックスは、一昨年は「インプラントの表面性状」、昨年は「紫外線照射による表面改質、ジルコニアインプラント」、そして今年は「CAD/CAMによるガイドサージェリー、CTによる三次元診断の必要性」と変化しています。

私は大学院4年間で人工骨と異種骨による骨再生を評価した研究をまとめ、「Hardness of new bone by bone grafting materials」という演題名でポスター発表しました。発表を通し多数の意見を交換し、理解を深められたことは今後の研究の大きな励みとなり、残り少ない大学院生活をより充実したものでできそうです。



武重優秀クラブ賞を受賞しました

バスケットボール部 D5学生 岩島 佑希

この度は、武重優秀クラブ賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。今夏、女子部は抜群のチームワークにより、東医大、全歯大、全薬大と全勝優勝することができました。また、その他の大会では、春季薬科大優勝、秋季リハビリテーションカップにて準優勝、さらに男子部が夏季全薬大にて準優勝という成績を収めることができました。個人成績としても、医学部4年薄井美由、歯学部5年岩島佑希がMVPを獲得しております。このような結果を残せたのも、諸先生方、OB、OGならびに関係者の皆さまのおかげと感じております。今後も、武重優秀クラブ賞に恥じぬよう部員一同日々練習に励んでいきたいと思っておりますのでご支援、ご声援の程よろしくお願い致します。



歯科医療研究会が表彰されました

歯科医療研究会 D4学生 西田 倫子

歯科医療研究会は創部以来、毎年夏季合宿で無歯科医村における歯科健診を行っております。平成18年度からは長野県下伊那郡根羽(ねば)村にて活動しています。この度、根羽村における永年の歯科健診活動に対して、根羽村より感謝状を頂きました。

表彰式は10月12日、晴天の中、村の運動会と共に行われました。併設された表彰会場は和やかながらも厳粛な雰囲気の中、大久保憲一村長から「村民の健康増進に努めて頂いている昭和大学の歯科健診活動をここに称えます」とのお言葉とともに、根羽村に刻印された感謝状を頂きました。

昨年度までクラブ部長としてあたたかくご指導くださった口腔衛生学の向井美恵名誉教授、新部長をお引き受け下さった弘中祥司教授、ならびにOB・OGの先生方のお力添えにより、毎年根羽村での歯科健診活動を行えていることに部員一同心より感謝申し上げます。今後も根羽村の方々のお口の健康増進活動に努めて参りますので、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



インフルエンザワクチン接種について

総合内科学部門 井上 紳

厚生労働省のインフルエンザ発生報告によりますと東京都および神奈川県で9月30日からの第40週に最初の報告があり、第43週の10月21日から増加に転じています。歯科病院の教職員に対する予防接種は12月11日(水)の11時45分～12時15分に予定されています。予防対策として栄養と休養、人混みを避ける、適度な温度・湿度、手洗いとうがいがあります。発熱や倦怠感、関節・筋肉痛などの異常があれば速やかに診察を受け、服薬と自宅安静をお願いします。治療は「イナビル」単回吸引です。疑わしい場合でも歯科病院総合内科にご相談ください。

昇進・採用

広報委員長 井上 富雄

柴田 陽 講師(歯科理工学部門)

横山紗和子 助教(インプラント歯科学部門)

編集後記

口腔微生物学講座 谷口 誠

11月号の担当も今回が三度目となりました。編集の度、時のうつろいを感じます。お忙しい中、原稿をご執筆下さいました皆様に心より感謝申し上げます。